

【生徒の感想】※一部抜粋

◆今回コミュニティダイアログに実際に参加して、それぞれの農村からきたリーダーがダイアログに積極的に参加する姿を見学しました。

ダイアログでは、LAFAEK の冊子に載っている写真について話し合い、意見交換し合うことで、昔からコミュニティに根付く伝統的女性観(女の子は家事をやり、男の子は学校に行くのが当たり前など)を少しずつ変え経済成長に伴って、より地方のコミュニティが暮らしやすくなることを実現しようと努力していました。

参加していた農村のリーダーたちの男女比はほぼ半々であり、彼らが持つ男女平等に対する意識は高く、例え男女の仕事や役割が逆転しても違和感はないと言っていたのが強く印象に残りました。しかし実際に自分の住む村でそのような光景を見たことがあるのかと尋ねたところ「それはないなあ、社会の流れがそうになっているから仕方ない」という矛盾した答えが返ってきました。

LAFAEK のおかげで人々の間で社会的価値観が確実に変化しているのは事実ですが、実際に人々が行動に移すにはまだ時間がかかる気がしました。

それでも農村部の人々の潜在的意識、価値観を少しずつ変えている LAFAEK 事業は今後経済発展を遂げるであろう東ティモールには必要不可欠な支援だと思います。



◆今回の東ティモール渡航を経て東ティモールに住む人々の姿を間近に体感しました。

始め日本で学習を行っていた頃、東ティモールの人々は LAFAEK を用いたダイアログにおいて常に受け身の姿勢でいるものだろうと思っていたのですが、実際にコミュニティダイアログの現場に参加したところ、人々の積極性に驚かされました。

各グループに分かれてイラストに示された情報を書き出し、お互いに発表し合う。時にはそれを教えるように伝える。この行動はとても素晴らしいことだと感じたのです。

このように人々が互いに道徳的に、また子供が健康に育つ為に必要なことを教え、学び、身につけることで幸福なコミュニティが作られるのではないかと思います。

◆僕は元々コーヒーが好きでこの渡航に参加しました。「生産地に行ってコーヒーチェリーを摘めるなんて！」そんなことを言い周り、渡航直前には「東ティモールでコーヒーを30杯飲む」などと馬鹿げた目標を立てたりなどしていましたが、実際僕を動かしていたのは、そんな単純で簡単な原動力だったのです。しかし今回見学させていただいた農家さんのコーヒー栽培への熱い思いは僕のソレと比べ物にならない程でした。コーヒーの木をただ栽培するのではなく、細部まで手入れをしたり、また様々な精製方法(ナチュラルから最新の嫌気性発酵まで!)を用いて味の研究をしたり。正直ビビりました。また、それと同時に生産者への愛着も湧き出てきました。普段愛してやまないコーヒーは、その生産者さんも同様にコーヒーへ情熱を注いでいた。このことに僕はとても感動させられたのです。世界には沢山のコーヒー農家の家庭が多く存在しています。その中でコーヒー栽培に熱意を持つかそうでないかで篩にかけると、あの東ティモールで出会った農家さんのような人は比較的少なく、大きな差が出てくるかと思われまます。今、僕はこのような生産者が増えたいと心から望んでいます。そのためにはただ日本に留まり、自分だけが美味しくコーヒーを飲んでる訳にはいかないのです。もっと生産者のすぐ近くに寄り添い、共にコーヒー栽培に力を注ぐことでこそ、より美味しいコーヒーを飲み、またそれを将来の為に守り続けることができるのです。この渡航を受けて僕は将来を、また人生の多くをコーヒーの為に捧げようと決意しました。この決断をさせてくれた素晴らしい機会に感謝しています。



◆渡航前はコーヒー一杯すらまともに飲めなかった私が Letefoho でコーヒーの魅力に引き込まれ、農家さん達の創意工夫しながらコーヒー豆を育てる姿を間近で見ることができて、帰る頃にはブラックを味わって飲めるようになるとは夢にも思いませんでした。

ピースウィンズ・ジャパンは農家さんにとってノウハウを教えてくれる大切な技術者であり、また対等なビジネスパートナーでもあります。ただ一方的に支援するのではなく、農家さんと共にコーヒーの可能性を模索し、信頼関係を地道に築いていく。

そんなピースウィンズ・ジャパンとコーヒー農家さん達の姿を見た私は世の中にもっと東ティモールの、Letefoho のコーヒーを知ってもらいたい、飲んでもらいたいと心から思いました。

◆ピースウィンズ・ジャパンさんにたくさんお世話になった中で最も印象的だったのはマヌエルさんの農園を訪れたことでした。

彼はコーヒーの生産や研究に非常に意欲的な方で、親切に指導してくださりながら私はコーヒー生産のプロセスを体験しました。

一つ一つの作業が綿密で数も多い中、いかに丁寧かつ質の高いコーヒーを作るかが大変なことかがよく分かりました。

彼は自分自身の仕事に本当に誇りを持っています。

私たちが暖かく歓迎してくださり、私たち以外にもより多くの人に訪れてもらいたいとおっしゃっていました。自分の仕事をこんなにも誇りに思っているマヌエルさんを見て、心からかっこいいと思いました。

そして、ピースウィンズ・ジャパンさんのレテフォホの農家さんたちとの強いつながりや信頼関係、たくさん失敗したと伺いましたが、それでも農家さんたちを思ってお仕事されているスタッフの一人一人もとても印象的でした。

